

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 26 日現在

機関番号：34415

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26360032

研究課題名(和文) ヒンディー語雑誌におけるインド近代表象とその歴史の変容

研究課題名(英文) Representation of Modernity in Hindi Magazines

研究代表者

小松 久恵 (Komatsu, Hisae)

追手門学院大学・国際教養学部・講師

研究者番号：80552306

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、近代インドにおいて女性の公共圏への進出をヒンディー語雑誌との関わりから検証した。女性雑誌が登場した19世紀後半から、北インドに人気女性雑誌が広く普及した20世紀前半まで、雑誌はその体裁、読者層、書き手、内容など様々な面において変容していった。特に読者投稿欄に着目しながら、女性の自己表象ならびにそれに対する評価を検証し、ヒンディー語圏である北インドにおいて女性をめぐる近代化がいかに表象されたかを明らかにした。

研究成果の概要(英文)：This research aims to examine how Indian women in early 20th entered the public sphere through the Hindi magazines. In the late 19th century, women's magazines first appeared in India and later some magazines gained popularity in Hindi area around the first half of the 20th century. During this period, magazines had changed in various aspects such as its appearance, readers, writers, content and so on. Focusing on the readers' column section, the woman's self-representation and its evaluation can be analyzed and clarified how the modernization over women in the Hindi-speaking area can be mirrored.

研究分野：ヒンディー文学

キーワード：女性雑誌 近代インド ヒンディー文学

## 1. 研究開始当初の背景

近年、わが国で初めてインド各言語の専門家が集まり、共通する軸を設定して各言語による文学史を編纂、一つの大きな流れを検証するという壮大な試みが始まった。もっとも文学史を編纂する際、取り上げられるのは各時代における主要作家の代表作品であり、雑誌が分析の中心となることはない。しかし文学史の主流から外れてはいるものの、雑誌は時代の特色 世論や社会風俗、大衆文化などを非常に明瞭に映し出すものである、インド文学史のみならずインド近代史を重層的に検証するにあたって、その資料価値を軽視することはできない。

インドにおける雑誌文化は 19 世紀中葉から始まり、北インドでは 20 世紀前半に入ってから広く発展した。印刷技術や交通網の発展によって、雑誌が地域を超えて人々を結ぶ重要な媒体となると、社会改革運動ならびに独立運動の指導者たちは活動の一環として雑誌を編集発行し、そこでそれぞれの理念を主張して民衆に活動への参加と理解を呼びかけた。女性の地位向上と女子教育の普及は改革者たちが最も重要視した問題であり、それらを目標に掲げた雑誌がインド全土で 1870 年代から発行され始める。女性向けのヒンディー雑誌が登場したのも同時期のことであった。

しかしそれらは女性のための娯楽的な読み物というよりはむしろ、男性による「男性優位的」立場からの指導的かつ啓蒙的なものであり、女性による女性のための雑誌が登場したのはさらに数 10 年後のことであった。社会改革に遅れを取っていた北インドで、女性の編集者や執筆者による文字通り女性のための雑誌が相次いで発行されたのは、20 世紀に入ってからである (Vasudha Dalmia 1997, Francesca Orsini 2002, Ulrike Stark 2007 など)。中でもヒンディー語圏で中心的な役割を負った 3 誌 GrihaLakshmi, Stri Darpan, Chand は、女性たちに初めて語る場と声を与え、彼女たちが「ヒンディー公共圏」に接触する契機となった (Orsini 2002, Shobna Nijhawan 2012, Komatsu 2013)。

しかしこれまでのところ、ヒンディー語女性雑誌を扱った研究はごく限られている。我が国においては、近年まで全く行われてこなかったといえよう。近年出版された Bharatiya Patrakarita Kosh (インド雑誌事典) 2007 においても、女性雑誌の紹介は充実しているとはいえない。また先行研究が言及、依拠する雑誌の数、種類も似通ったものであり、近代インドにおいて刊行されていたヒンディー雑誌、特に女性雑誌の全体像を把握する試みが十分にはなされてこなかったといえる。

報告者はこれまで、ヒンディー文学における女性自伝に注目してきた。主な関心は、さまざまなレベルの文学作品における女性の自己表象を分析することにある。これまでの

研究で明らかになったのは、近代インド女性にとっての公共圏と雑誌文化の関係の重要性である。博士論文では上述の 3 誌を取り上げて、雑誌が女性と社会とを結ぶ重要な役割を果たしていたことを提示した。そして雑誌に現れる女性の自己表象を読者投稿欄と寄稿記事を元に多数検証し、女性とその帰属社会を問わず社会規範に強く縛られていることを指摘した。さらに各紙の編集記を比較することで、3 誌のそれぞれ異なる性格を明らかにし、同時期の女性雑誌の多様性を紹介している。

しかしこれまでの研究では、入手しえた雑誌が Chand を中心とした 100 号程度と限られたものであったため、十分な分析ができたとは言えない。よって平成 23 - 25 年度には研究代表者として、学術研究助成基金助成金 (若手 B) 「雑誌にみる近代 ヒンディー語女性雑誌におけるインド近代表象」を組織し、より多くの資料を用いた研究を実施した。これらの研究を通して課題として浮かび上がってきたのが、近代インドで発行されたヒンディー語雑誌を包括的に整理する必要性である。先行研究が一次資料としている雑誌は、そのほとんどが共通した、かつ限られたものでしかない。それは研究者の一次資料へのアクセスに制限があることを示している。さらにそれらの所蔵先であるはずの複数の図書館を訪問したところ、雑誌の多くが数年の間に紛失、あるいは破損していることが判明している。貴重な資料が適切に保管されず、整理もされないままに破損、紛失し続ける状態を防ぐことが火急であり、これらを可能にする研究の継続を構想するに至った。

## 2. 研究の目的

本研究の当初の目的は、19 世紀末から 20 世紀半ばのインドにおけるヒンディー語雑誌の分析を通して、インド近代化の諸相を照射することにあつた。本研究では特に女性向け雑誌の読者投稿欄ならびに広告頁に注目するが、これはこれまで取り上げられてきたいわゆるエリートの目線からではなく、より大衆に近い目線から見た近代インドを再考する作業になり、近代インドのこれまで語られてこなかった側面を明らかにすることになる。

本研究は 1870 年代から 1940 年代というインド社会にとっての大きな変革期に焦点をあてて、包括的なアプローチによるヒンディー語雑誌研究を行う。この時代は、インド社会が独立に向けて変容し続けた時代であるとともに、女性の公共圏参加が大きく前進した時代である。また女性向け雑誌 Balabodhini が初めて発行され (1874 年) そして近代ヒンディー語圏の中間層の間で最大流通を誇った Chand が廃刊になる (1949 年) というヒンディー語雑誌の歴史においても非常に重要な時代である。これら一連の変化が相互に影響を与え作用した時

代に発行されたヒンディー語雑誌を、応募者自身のこれまでの研究成果をふまえ、収集、整理、検証することを目的とした。

さらに収集した雑誌の表紙画像を付した書誌データを作成し、各々の特色かつ保管状態まで網羅する充実した目録作成を目指した。内容分析において取り組む課題は、(1) 表象(国家/女性)をめぐる政治学ならびに(2) 広告に見られる消費活動である。これらの成果を統合し、20世紀初頭のインド社会におけるヒンディー雑誌を多元的にとらえ、その役割を包括的に論じることを目的とした。

### 3. 研究の方法

本研究は、平成23-25年度の学術研究助成基金助成金[若手B]「雑誌にみる近代ヒンディー語女性雑誌におけるインド近代表象」研究の成果を踏まえて、ヒンディー語雑誌研究を発展、再構築するものである。

主な方法は(1)インド国内外図書館での資料調査(2)調査データの集積と分析(3)国内外での学会参加・発表の3点である。以下に詳細を記す。

#### (1) 資料調査

首都デリーにある比較的設備の整った図書館(国立ネルー記念図書館、マールワリー図書館)での資料調査・収集に加え、これまで調査が十分でなかった地方図書館のうち、カルカッタの国立図書館(National Library)ならびにアジア協会図書館(The Library of the Asiatic Society)アラハバードのヒンディー文学協会図書館(Hindi Sahitya Sammelan Pustakalaya)そしてベナレスにあるナーガリー普及協会図書館(Nagari Pracharini Sabha Pustakalaya)での調査をそれぞれ徹底させる。各図書館では所蔵雑誌のカタログをもとに、主要雑誌の所蔵状態を確認し、データを収集する。

上述の図書館に加え、図書館員ならびにインド人研究者に、雑誌を所蔵するその他の図書館の情報を確認する。同時に古い雑誌を効率よく購入するため、古書専門店 Prabh Book Service を中心に現地の古書背店に研究趣旨を伝え、協力を依頼する。

#### (2) データの集積と分析

収集したデータを整理する上で、特にインド社会が大きく動いた1920-30年代に注目する。この時期は独立運動、社会改革運動が盛り上がった時期であり、またヒンディー語が「National Language」としての地位を獲得しヒンディー語出版が盛んになった時期でもある。

着目するテーマとしては、社説ならびに編集記に注目し、各雑誌の編集長が独立運動ならびに社会改革あるいは国際社会をどのように論じ、「インド」が目指すべき姿をどのように描いていたのかなど、国家表象の検

証に主眼を置く。1920年代から急増する女性に関する記事を取り上げる。中でも女性自身による投稿(読者投稿、手記、各種レポート)を分析することで、各種雑誌の読者層を探る。同時に編集者からの返信に着目し、各雑誌の編集方針を検証する。雑誌に掲載された写真、イラスト(特に風刺画)に着目し、当時のインド社会における「他者」とその表象、そして時代による変容を検証する。

#### (3) 国内外での学会参加・発表

調査分析結果は国内での学会を中心に公表し、学会発表を通して成果をまとめあげ、学会誌に論文を投稿する。最終年度は、海外の学会(British Association for South Asian Studies、European Conference on South Asian Studies、America Conference on South Asian Studiesのいずれか)で発表をおこなうとともに、本研究の成果に基づいた専門書(英文)の編集・出版を行う。

### 4. 研究成果

#### (1) 研究の主な成果

##### 雑誌の所蔵確認

インド国内(特に地方)の図書館における雑誌の所蔵状態を確認することができた。資料の多くはその保存状態ゆえに複製が禁止されているため、コンピューターへの打ち込みとデジタルカメラでの撮影によってデータを収集し、包括的な目録を作成している。その際、雑誌の表紙画像を付した書誌データを作成し、各々の特色かつ保管状態まで網羅する充実した目録作成を目指している。

20世紀前半に発行された雑誌のいくつかは、ニューデリーの国立ネルー記念図書館でデジタル化されているが、それは雑誌全体からみればごく一部の、そして限られた号数だけである。一方、地方図書館には現物が多数保管されている。

しかしながらその保管状態にはいくつもの問題が散見され、多くの図書館において雑誌はカタログ化・リスト化されていないか、されていたとしても情報が更新されておらず、リスト自体が信用できるものではなかった。

もっとも、すべての地方図書館にその状態が当てはまるわけではない。たとえばアラハバードのヒンディー文学協会図書館では、熱意ある図書館員の監督下、多くの雑誌がリスト化され、破損した雑誌は修復作業を行うなど、比較的良い状態で保管されていることが確認された。ポーパールの新聞、雑誌を専門とする私立図書館でも、所蔵数は非常に少ないが、図書館員が保管状態に目を光らせている。しかし残念ながら、これらの図書館は少数派である。中でもベナレスのナーガリー普及協会図書館は、図書館全体のメンテナンス、雑誌の保管状態、図書館員の知識ならびに待遇など、取り組むべき問題が山積みであることを確認した。

### 読者投稿欄分析

雑誌によって読者投稿欄の規模や投稿数の多寡は大きく異なる。これまで読者投稿欄を中心に 2000 枚以上の資料をデジタルカメラでの撮影を中心に収集した。読者投稿数が最も多かった雑誌 Chand については、創刊号である 1922 年 11 月号から廃刊 (1949 年 11 月号) まで掲載された読者投稿はほぼ網羅しており、書き手の性別、年齢、所属コミュニティに加え、相談内容の分析を進めている。

同誌は最大時で 20 通近くの投稿が掲載されたが、それ以外の雑誌においては、例えば同時代の人気女性雑誌である Griiha Lakhshmi 誌には、一号に付き多い時で 3 - 4 通掲載されるのみである。北インドにおけるフェミニスト雑誌の草分けともされる Stri Darpan などには、読者投稿欄自体が設けられていない。Chand での分析結果を比較対象としながら複数雑誌における投稿欄を分析することで、各雑誌の 1) 読者層 2) 相談内容とその変容 3) 対応する編集者が設定する理想の女性像、を明らかにした。

なおこれらの調査分析結果は、国内外の学会 ( FINDAS International Conference; Literary Intervention and Political Culture in South Asia または 24th European Conference on South Asian Studies ) にて報告している。またそれらの報告をもとに、Print Journalism 論文集に論文を寄稿することが決定しており、現在ファーストドラフトを執筆中である。

### 他者像

Chand 誌の特集号 (Nov. 1929) を一次資料とし、特集された特定の商人コミュニティ ( マールワーリー ) の表象分析を行った。同号に掲載されたマールワーリーをめぐる多数の強烈な風刺画や、複数の論文に加えて、複数号にわたって掲載された特集号をめぐる議論もふまえながら、近代インドにおける「他者表象」の分析ならびに「自己表象」との齟齬を提示した。この成果は国内外の学会 ( 45th Annual Conference on South Asia、ならびに日本南アジア学会第 28 回全国大会 ) にて報告している。

### ( 2 ) 得られた成果の位置づけ

女性向けに出版された雑誌は、女性に語る声と場を、そして物理的な距離を超えてつながりあう経験を提示した。そのどれもが、それまで女性には認められなかったものであり、女性たちがヒンディー文学界へと進出するひとつのきっかけをもたらした。この論には「インド文化事典」ならびに「南アジアジェンダーハンドブック」の文学の欄にて言及し、ヒンディー文学と女性の関係を語る上で、雑誌が果たした意義は非常に大きいことを提示した。

また上述したように、読者投稿欄に現れる女性の自己表象と雑誌編集者の反応の分析

を、ヨーロッパ南アジア学会 ( 24th European Conference on South Asian Studies ) ならびに FINDAS International Conference で発表した。発表はインド本国ならびに英国、東欧など各国の研究者から非常に好意的に評価され、Print Journalism 論文集の出版計画へとつながっている。

### ( 3 ) 今後の展望

本研究では、インド国内外の複数図書館における所蔵調査によって、貴重な雑誌資料の所在並びに現状を確認することができた。しかし大半の図書館において雑誌の保管状態は決して良好なものではなく、想像以上に確認に時間を有し、主要雑誌数誌に関するデータを確認、収集するにとどまってしまった。

中でも地方図書館 ( 特にペナレスのナーガリー普及図書館 ) では、比較的多数の雑誌が所蔵されているにもかかわらず、その保存状態は壊滅的であり、正確な所蔵リストも存在しないことを確認した。さらには地方の大学教員より、同図書館の資料保管状態がさらに悪化していることを知らされ、地方図書館での調査は急を要することが再確認された。現地研究者との協力体制を整えて、貴重な資料をどのように保管していくのか、対話を続けていく必要があるだろう。

一方で、イギリスや東欧の雑誌研究者に加え、現地で雑誌研究を行う研究者の存在を確認することができた。プリント・ジャーナリズムの論文集の出版を第一歩として、それをきっかけに今後、さらなる共同研究の可能性を探っていきたい。

### 5 . 主な発表論文等

( 研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線 )

#### [ 雑誌論文 ] ( 計 4 件 )

Komatsu, Hisae 'Let Me Tell You My Story: Women's Narratives in Hindi Magazines of Early Twenties Century India', FINDAS International Conference Series, (査読無) Vol.2, 2018, 11-19.

小松久恵, 「アルパナー・ミシュラ作『自由への執着』追手門学院大学国際教養学部「アジア学科年報」第 10 巻、2017 年、86-97.

小松久恵, 「アルパナー・ミシュラ作『この世界のわたしたち』追手門学院大学国際教養学部「アジア学科年報」第 9 巻、2015 年、21-35.

小松久恵, 「アルパナー・ミシュラ作『伴侶も友も』追手門学院大学国際教養学部「アジア学科年報」第 8 巻、2014 年、59-68.

〔学会発表〕(計 4 件)

Komatsu, Hisae 'Let Me Tell You My Story: Women's Narratives in Hindi Magazines of Early Twenties Century India', FINDAS International Conference; Literary Intervention and Political Culture in South Asia, 2018.

Komatsu, Hisae 'Voices of Nameless Women: Hindi Magazines of Early 20th Century India', 24th European Conference on South Asian Studies(ワルシャワ大学), 2016.

Komatsu, Hisae 'A Wife of Gandhi's "Fifth Son"; Involvement of a Marwari Woman in the National Movement', 45th Annual Conference on South Asia(マディソン), 2016.

小松久恵、「ガンディーの5番目の息子」とその妻 独立運動におけるマールワリー女性をめぐる一考察、日本南アジア学会第28回全国大会、2015年

〔図書〕(計 4 件)

小松久恵、春秋出版、「買う・作る・味わう 現代作家が描く食と女性」『近現代インドの食とアイデンティティ(仮)』、2018年(出版予定)

小松久恵、丸善出版、「近現代のヒンディー文学と女性」『インド文化辞典』、2018年、128-129頁

小松久恵、東京外国語大学出版 南アジアジェンダーハンドブック、コラム17「ヒンディー文学と女性作家」、2018年、208-212頁

小松久恵、東京大学出版 シリーズ現代インド第五巻、「女が『わたし』を描くとき」、2015年、229-248頁

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小松 久恵 (Hisae KOMATSU)  
追手門学院大学・国際教養学部・講師  
研究者番号：80552306

(2) 研究分担者

( )

研究者番号：

(3) 連携研究者

( )

研究者番号：

(4) 研究協力者

( )